

手洗いによるノロウイルス除去効果に関する実験結果

以下のとおり、ノロウイルスを除去するために効果的な手洗いの方法、薬剤の種類等を検討した。

目的	検討項目	方法	成分	結果
洗い方の検討	流水すすぎ	15秒間流水によるすすぎのみを行った。		手指に付けたウイルスが、100分の1程度に減少した。
	もみ洗いの時間、回数	石けんを使ったもみ洗いの時間を変えて比較した。		石けんによるもみ洗い60秒、または、(石けんによるもみ洗い10秒 + 流水すすぎ15秒) × 2回 は、有効であった。
薬剤等を使った手洗いの検討	薬用石鹸(ハンドソープ)	市販の薬用石鹸(ハンドソープ)3種を用いて手を洗った後、15秒間流水ですすぎを行った。	ヨード化合物	いずれの成分においても、感染価、遺伝子量ともに、流水すすぎのさらに10分の1程度に減少する傾向が見られた。 ヨード化合物では、ウイルス不活化効果も推定された。
			トリクロサン	
			フェノール誘導体	
消毒薬	市販の手洗い用薬剤を用いて洗った後、流水ですすぎを行った	消毒用アルコール	いずれの成分においても、流水による場合と比較して、更なる洗浄効果は認められなかった。	
		クロルヘキシジン		
第四級アンモニウム				
強酸性電解水	もみ洗い、すすぎの際に強酸性電解水を用いる。		実施中	
洗い以外の方法の検討	速乾性消毒剤	市販の速乾性消毒剤を手指に擦り込んだ。	クロルヘキシジン	明確なウイルス不活性化効果は認められなかった。
			第四級アンモニウム化合物	明確なウイルス不活性化効果は認められなかった。
			ヨード化合物	ウイルス感染化の減少が認められた。
	ウエットティッシュ	市販のウエットティッシュを用いて手指を拭いた。	アルコール + 第四級アンモニウム	実施中
アルコール + グルコン酸				
安息香酸				
アルコール + PHMB(ポリヘキサメチレンピクアチド)				

検討の端緒になった情報(第8回食品安全情報評価委員会資料)で報告済